

(2) 人口

本町の人口は、昭和 30 年の 9 千人弱をピークに年々減少を続け、平成 28 年 (2016) 9 月末の住民基本台帳人口で 1,635 世帯 4,102 人となっている。

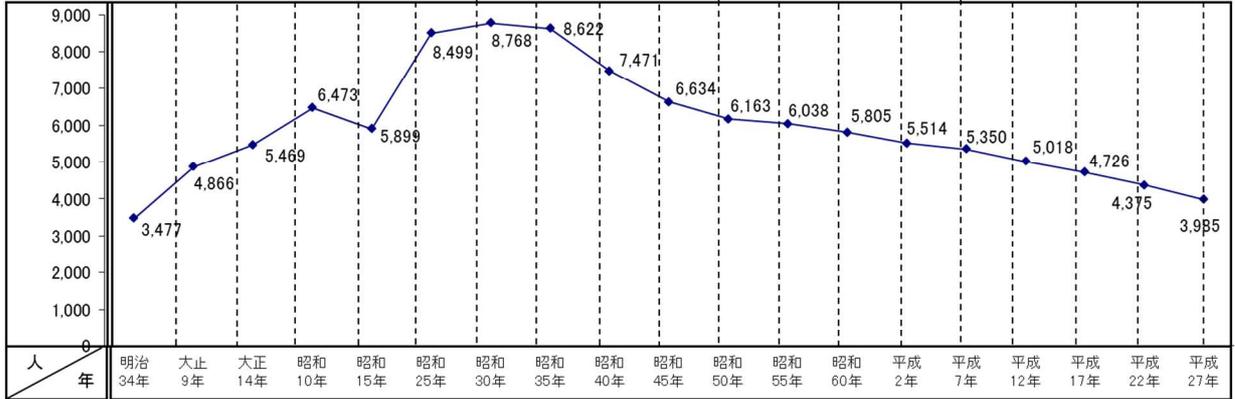


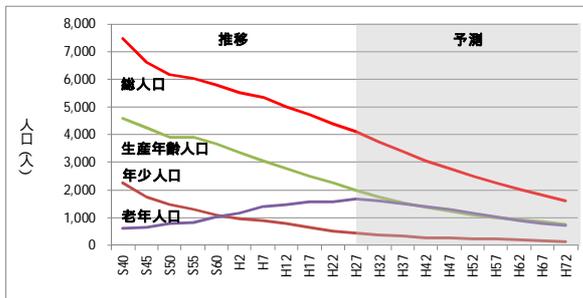
表 1-4 総人口推移(資料:国勢調査)

人口の自然増減については、出生数が死亡数を下回る「自然減」が続いており、社会増減については、平成 10 年 (1998) 以降、転出数が転入数を上回る「社会減」の年が多くなっている。

年齢 3 区分別人口の推移として、生産年齢人口・年少人口は昭和 40 年 (1965) 以降減少が続いている。

老年人口は昭和 40 年 (1965) 以降、増加が続き、平成 2 年 (1990) には年少人口を上回ったが、近年は増加傾向が弱まっており、将来推計においては、3 区分すべての人口が減少していくと推計されている。

年齢 3 区分別人口の推移と予測

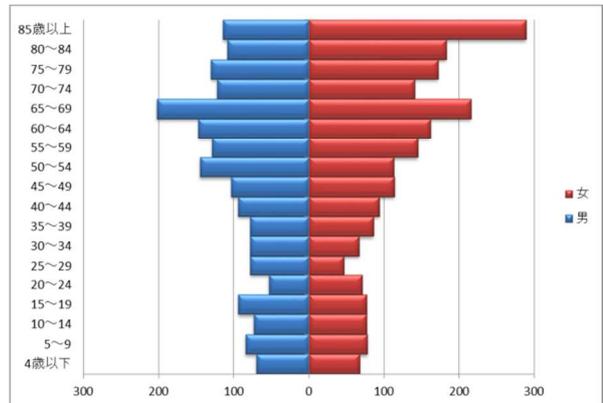


年少人口...15 歳未満人口

生産年齢人口...15 歳以上 65 歳未満人口

老年人口...65 歳以上人口

平成 28 年 (2016) 時の人口ピラミッド



(3) 交 通

本町の道路網は、町中央部を東から西側にかけて国道 219 号が横断し、大分県佐伯市(さえきし)から宮崎県椎葉村(しいばそん)を経て国道 388 号が町中心付近で国道 219 号に接続している。町内では主要地方道県道錦湯前線(にしきゆのまえせん)、一般県道西の園中里線(にしそのなかさとせん)が主要な県道となっている。

また、重要文化財等への経路として、国道 388 号から国道 219 号を経て町南部地域に至る町道浜川・中猪線(はまごうなかいせん)のほか、県道錦湯前線からつながる町道東方線(ひがしかたせん)が主要な町道となっている。

本町の公共交通機関としては、鉄道(くま川鉄道)及び路線バス(九州産交)があり、宮崎県側からは、西米良村営バスも湯前駅まで運行されている。

湯前駅はくま川鉄道の終着駅で、日あたり 200 人程の乗降者数であるが、駅本屋(えきほんや)は国の登録有形文化財ともなっており、平成 25 年(2013)からの観光列車運行開始などにより沿線主要駅で唯一乗降者数が増加している。

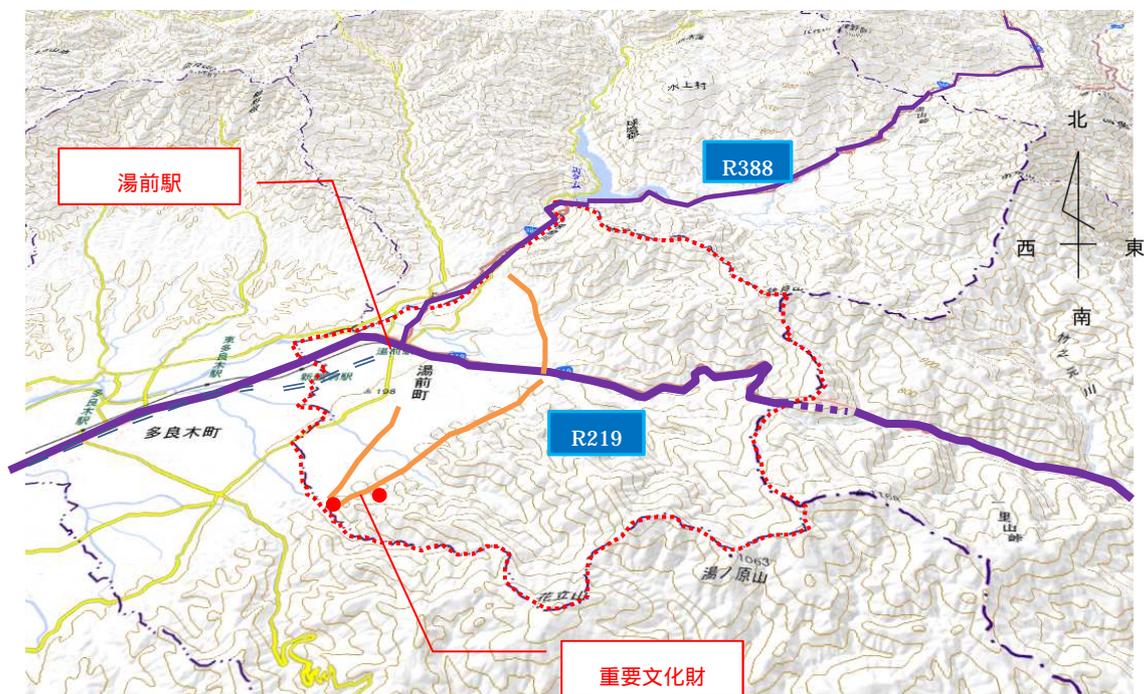


図 1-6 主要道路網図

国土地理院の電子地形図(タイル)に町村界・路線図・施設名を追記して掲載

人吉・球磨地域の交通網

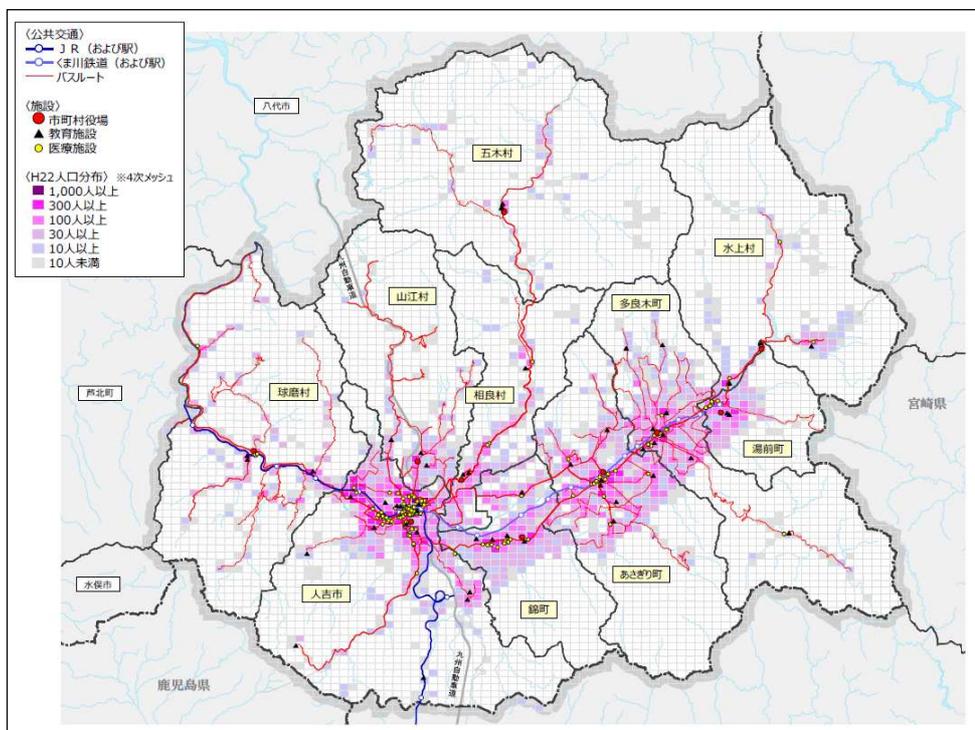


図 1-7 人吉・球磨地域公共交通網形成計画 (2016) より転写

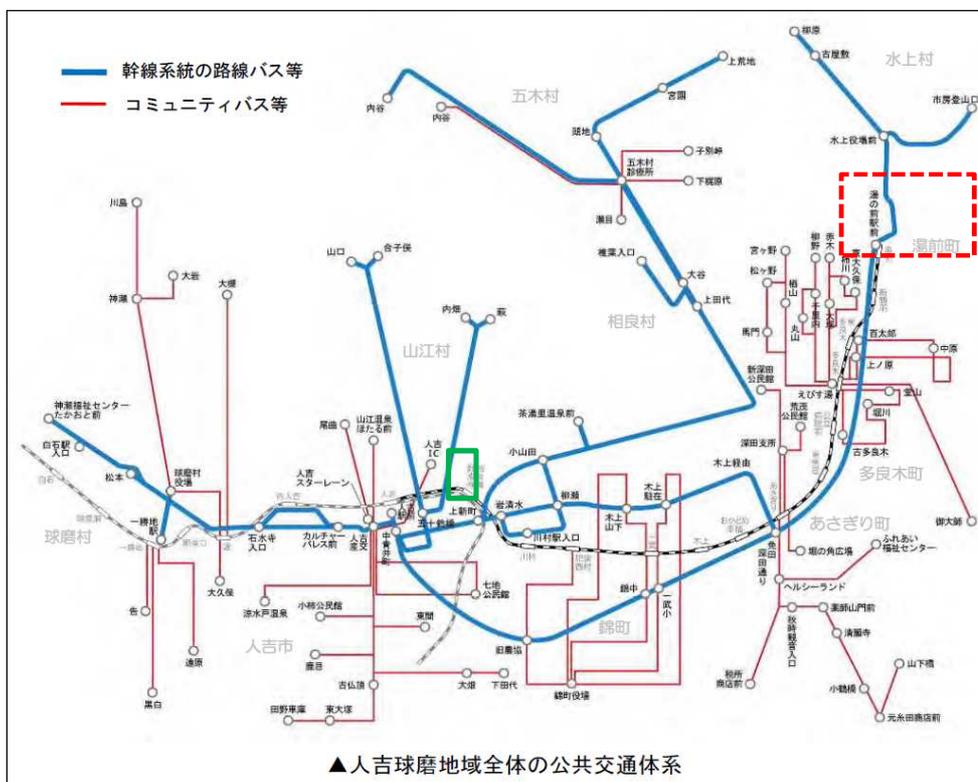
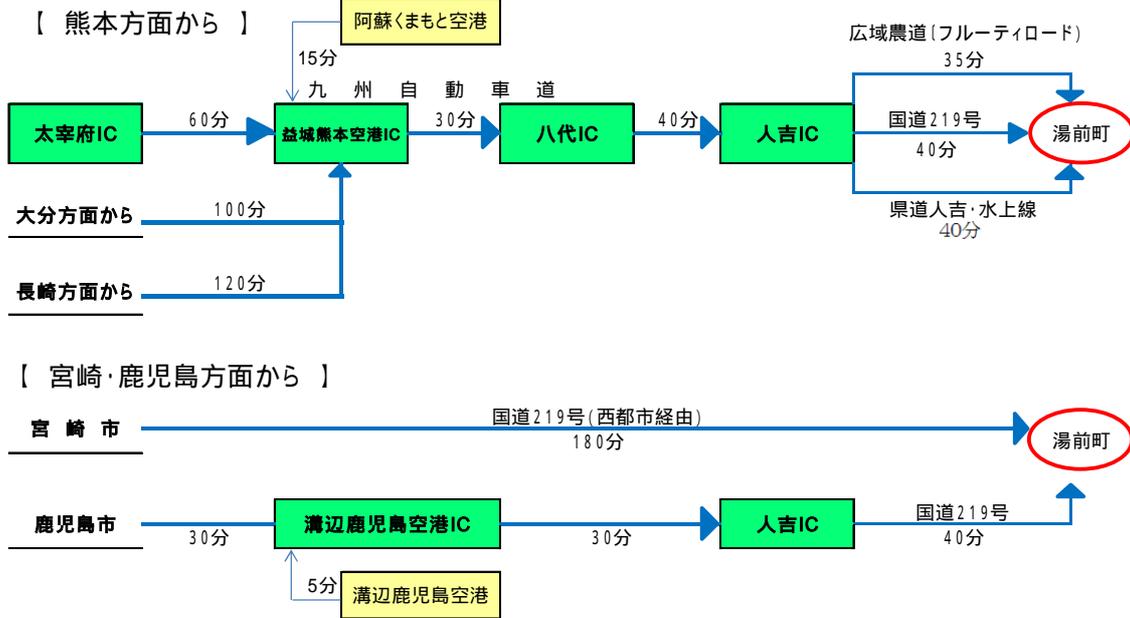


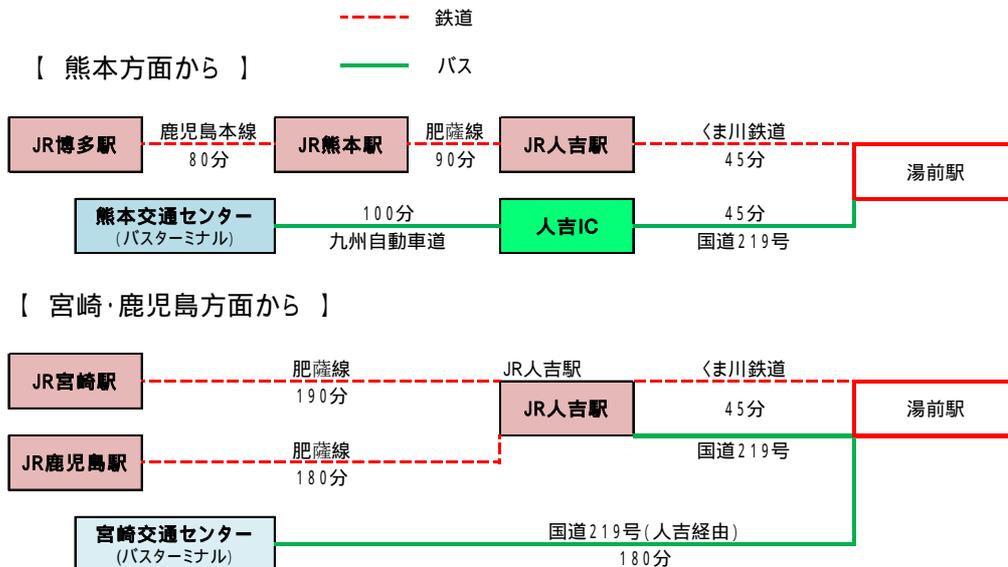
図 1-8 人吉・球磨地域公共交通網形成計画 (2016) より転写・加工

湯前町への交通アクセス

自動車利用



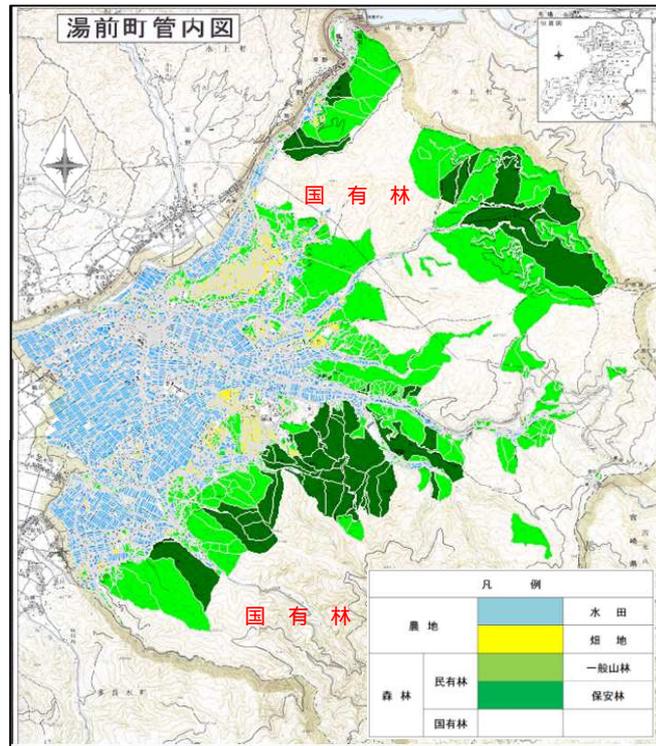
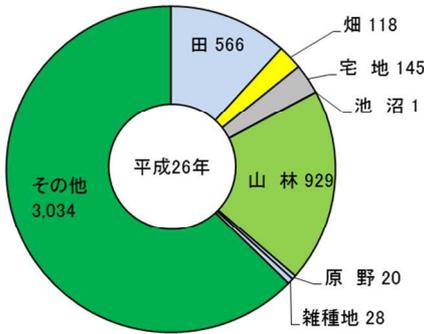
公共交通機関利用



(4) 土地利用

本町は、総面積 48.37 k m²、標高 250mの等高線を境として、平野部と山間部に大きく二分されている。全体の約7割強を占める山間部は森林であり、国有林主体の奥山が2,187ha、民有林主体のすそ野が1,414haとなっている。

平野部は、急傾斜地から発達した台地と球磨川河畔から広がる低地により構成され、利用用途別には、農用地面積が約14.1%の684ha、宅地が約3.0%の145haとなっている。



土地利用(地目別面積)

(単位: ha・%) 資料: 固定資産概要調査

| 区分 | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | | 平成26年度 | |
|-----|----------|--------|----------|--------|----------|--------|----------|--------|
| | 面積 | 構成比 | 面積 | 構成比 | 面積 | 構成比 | 面積 | 構成比 |
| 田 | 575.62 | 11.90 | 567.70 | 11.70 | 566.27 | 11.70 | 566.10 | 11.70 |
| 畑 | 117.63 | 2.40 | 117.43 | 2.40 | 118.51 | 2.40 | 118.46 | 2.40 |
| 宅地 | 144.53 | 3.00 | 144.58 | 3.00 | 145.15 | 3.00 | 145.21 | 3.00 |
| 池沼 | 1.06 | 0.00 | 1.06 | 0.00 | 1.06 | 0.00 | 1.06 | 0.00 |
| 山林 | 932.37 | 19.30 | 930.54 | 19.20 | 929.43 | 19.20 | 929.35 | 19.20 |
| 原野 | 19.75 | 0.40 | 19.81 | 0.40 | 19.83 | 0.40 | 19.83 | 0.40 |
| 雑種地 | 24.22 | 0.50 | 27.12 | 0.60 | 27.60 | 0.60 | 27.77 | 0.60 |
| その他 | 3,026.82 | 62.50 | 3,033.76 | 62.70 | 3,034.14 | 62.70 | 3,034.22 | 62.70 |
| 総面積 | 4,842.00 | 100.00 | 4,842.00 | 100.00 | 4,842.00 | 100.00 | 4,842.00 | 100.00 |

その他には国有林野を含む、総面積は平成28年度現在48.37Km²である。



昭和 50 年（1975）撮影 湯前町中心部周辺の航空写真
国土地理院撮影の空中写真（1975 年撮影）



平成 27 年（2015）撮影 湯前町中心部周辺の航空写真

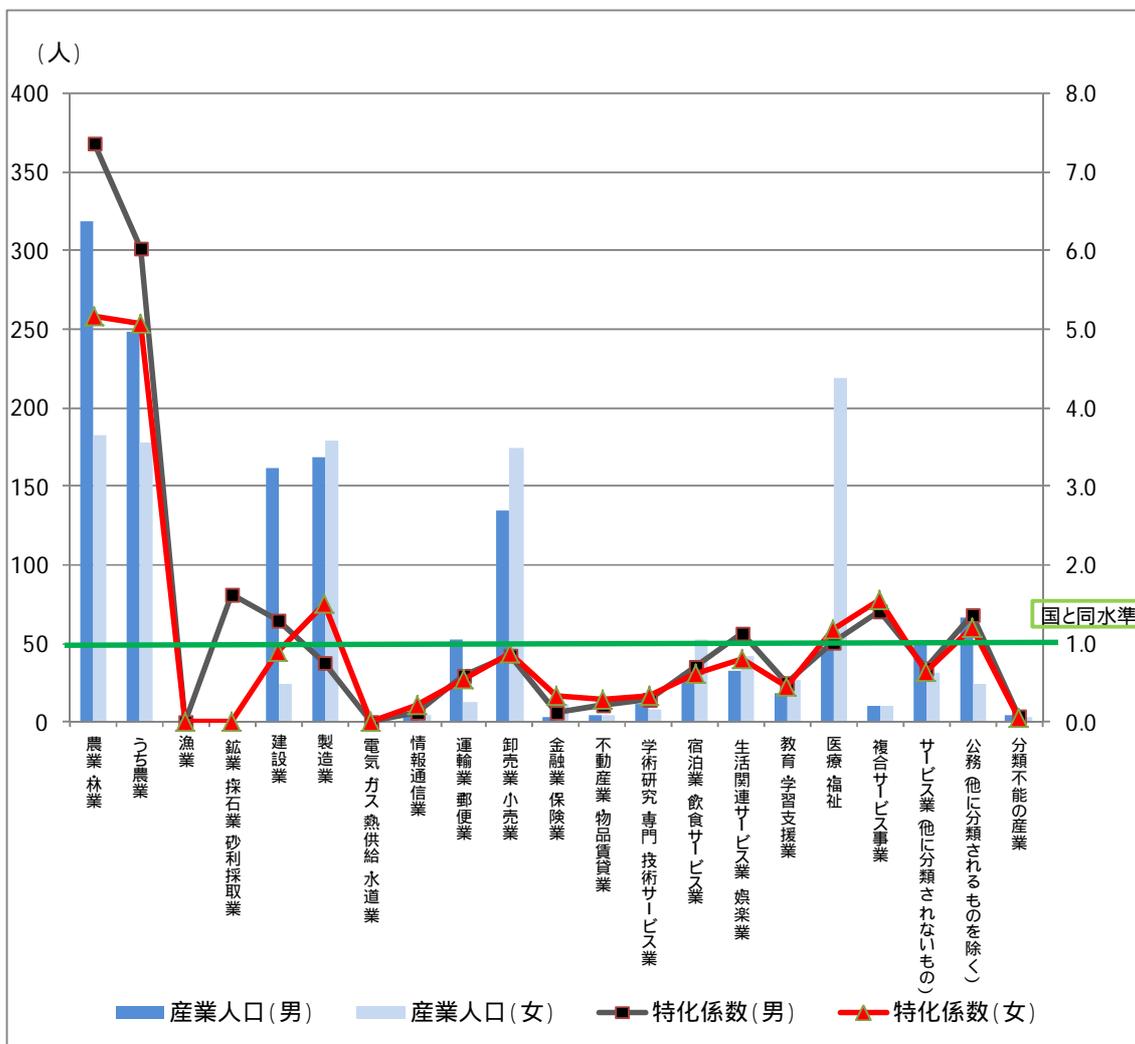
(5) 産業等

産業別就業(しゅうぎょう)人口

産業別就業人口(大分類)を見ると、農業・林業が最も多く、次いで、医療・福祉、製造業、卸売業・小売業、建設業の順となっている。

国と就業者比率を比較した特化係数(X産業の特化係数 = 湯前町の X産業の就業者比率 / 全国の X産業の就業者比率)は、農業・林業が男女ともに 1.0 を大きく上回っており、農業・林業が本町の主要産業である。

男女別産業人口 平成 22 年 (2010)



農 業

本町の農業は、気候と立地条件を生かして稲や麦を主体とする農業生産を展開してきたが、近年、経営の発展を図るため、いちご・メロン・ぶどうや花き等の施設園芸の導入が進んでいる。本町の農業構造については、昭和40年代から人吉市における工業団地の立地を契機として兼業化が進み、恒常的勤務による安定兼業農家が増加した。

農家人口、農家数、経営耕地面積等の推移（総農家）

（資料：農林業センサス）

| 区 分 | 農家人口(人) | | | 農家数(戸) | | | | | 経営体経営耕地面積(ヘクタール) | | | |
|-------|---------|-------|-------|--------|-----|-----|-----|-----|------------------|----|-----|-----|
| | 男 | 女 | 総数 | 専業 | 兼業 | | | 総数 | 田 | 畑 | 樹園地 | 総数 |
| | | | | | 総数 | 第一種 | 第二種 | | | | | |
| 昭和55年 | 1,451 | 1,526 | 2,977 | 153 | 522 | 226 | 296 | 675 | 537 | 70 | 38 | 645 |
| 昭和60年 | 1,280 | 1,349 | 2,629 | 116 | 474 | 140 | 334 | 590 | 504 | 68 | 41 | 613 |
| 平成2年 | 1,153 | 1,210 | 2,363 | 105 | 425 | 93 | 332 | 530 | 513 | 62 | 37 | 612 |
| 平成7年 | 1,057 | 1,099 | 2,156 | 102 | 399 | 86 | 313 | 501 | 507 | 64 | 30 | 601 |
| 平成12年 | 1,026 | 1,110 | 2,136 | 90 | 411 | 54 | 357 | 501 | 502 | 58 | 21 | 581 |
| 平成17年 | 914 | 977 | 1,891 | 88 | 387 | 50 | 337 | 475 | 453 | 43 | 16 | 512 |
| 平成22年 | 612 | 656 | 1,268 | 90 | 359 | 35 | 324 | 449 | 449 | 51 | 14 | 514 |

平成22年農家人口は、販売農家人口

経営耕地面積規模での農家数推移を見ると、兼業農家の増加や農家人口の減少、水田農業の機械化や受託作業化の進展といった時代背景もあり、経営面積規模の増加傾向が見られる。

経営耕地面積規模農家数の推移（販売農家）

単位：戸（資料：農林業センサス）

| 区 分 | 0.3ha 未満 | 0.3~ 0.5ha | 0.5~ 1.0ha | 1.0~ 2.0ha | 2.0~ 3.0ha | 3.0~ 5.0ha | 5.0ha 以上 | 総数 |
|-------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-----|
| 昭和55年 | 118 | 97 | 185 | 207 | | | | 607 |
| 昭和60年 | 102 | 90 | 156 | 165 | | | | 513 |
| 平成2年 | 62 | 75 | 150 | 181 | | | | 468 |
| 平成7年 | 79 | 79 | 121 | 130 | | | | 409 |
| 平成12年 | 1 | 76 | 115 | 120 | 53 | 27 | 9 | 401 |
| 平成17年 | 3 | 56 | 100 | 108 | 52 | 26 | 8 | 353 |
| 平成22年 | 4 | 50 | 93 | 99 | 39 | 17 | 9 | 311 |

本町の農地は、江戸時代の新田開発も関係し、水田 566ha、畑地 118ha と 8 割以上を水田が占めており、水田の作付けでは、「ヒノヒカリ」、「にこまる」といった品種でのうるち米栽培が中心であるが、近年は発酵粗飼料（ ）に使用する稲の作付面積が増加し、酒米の栽培等も増加している。

発酵粗飼料（はっこうそりょう）実が熟す前に、実や茎、葉を一体的に収穫し、酸素のほとんどない条件のもとで発酵させた貯蔵飼料。

平成28年度水田作付面積

単位：面積(ha)・戸数(戸)

| 区 分 | 面 積 | 戸 数 | 備 考 |
|------|--------|-----|----------|
| 水 稲 | 268.68 | 440 | うるち米・もち米 |
| 基幹転作 | 124.26 | 197 | 飼料作物 |
| 二毛作 | 102.35 | 145 | 飼料作物 |

平成 27 年度（2015）の農産物生産額では、米・麦・大豆等が 340 百万円、その他野菜等が 303 百万円となっており、その他野菜の内訳としては、生産額順に、いちご、花き（菊）、たばこ、メロン、きゅうり等の生産品目となっている。

また、水田の飼料作物転作にも見られるように畜産業も盛んであり、50 戸弱の畜産農家が肉用牛の肥育、繁殖を中心として、生産額でトップを占めている。

農産物生産額の総額においては、平成元年（1989）の約 1,907 百万円から年々減少しており、平成 27 年度（2015）で 1,167 百万円となっている。

平成27年度農産物生産額

単位：百万円

| 区 分 | 生産額 | 備 考 |
|---------|----------|-----------|
| 米・麦・大豆等 | 340.15 | そば・雑穀含む |
| その他野菜等 | 302.63 | いちご・花卉等 |
| 畜産 | 524.36 | 肥育・繁殖・生乳他 |
| 計 | 1,167.15 | |

本町の農業生産で主体となっている稲作においては、親族や集落総出の共同作業による田植えや稲刈りが行われ、稲刈り後の田んぼに竹の支柱を組み、刈った稲穂をかけて乾燥を行う竿掛け干し（さおがけぼし）の風景が見られていたが、機械化の進展等とともに稲作の光景も変化してきている。



田植機械の实地展示会（昭和中期）



現在の田植えの状況(平成28年撮影)

また、平成10年頃から地域の若手農家が湯前小学校と連携し、伝統的な手作業による田植えや稲刈りの体験等を継続的に行っており、児童や保護者等の食や農業に関する総合的な学習の機会ともなっている。



小学生による田植え体験



竿掛け干し（平成28年撮影）

林業木材産業

本町の林野面積は 3,601 h a (町面積の約 74%) となっている。山林の保有形態は、国有林 2,187 h a (林野の約 60%) が過半を占め、民有林が 1,414 h a (林野の約 40%) の構成割合となっている。

民有林の一般地勢は、市房山から花立山、白髪岳(しらがたけ)に連なる九州山地中腹以下の山麓を占め、林業経営に適しており、民有林では、スギ・ヒノキを主体として、人工林率約 90% であり全国平均の 41% を大きく上回っている。

本町の林業木材産業の特徴として、昭和 20 年代から小学校卒業 (S20~)・成人式 (S25~)・還暦者 (S28~) といった記念植林により、町有林の再造林を続けており、町基本財産の造成を地域住民で支えてきたと共に、林内路網の整備など身近に感じられる美しい森林整備に努めてきた。

また、原木市場や製材所などの木材産業施設も町内各地に散在し、風景としての林業が感じられる。



還暦者記念植林



成人式での記念植林



原木市場



木材産業事業所

商 業

本町の商業においては、商圈人口の減少、ライフスタイルや顧客ニーズの多様化、近隣市町村への大型店舗の出店など、商業を取り巻く環境が年々変化し、小規模な本町事業者は、消費の流出に伴う小売店の衰退に加え、経営者の高齢化や後継者不在などにより商店数は年々減少している。

特に、大正13年（1924）の鉄道開通にはじまり戦後の経済成長と共に発展した里宮通りの染田商店街や中里商店街といった中心部の商店街は、近年の人口減少とともに店舗数も大きく減少している。

商店数・従業員数・売場面積・商品販売額等

| 年次 区分 | 単位 | 平成 11 年 | 平成 14 年 | 平成 16 年 | 平成 19 年 | 平成 24 年 | 平成 26 年 |
|------------------|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 商 店 数 | 店 | 91 | 91 | 83 | 73 | 59 | 60 |
| 常 時 従 業 者 数 | 人 | 295 | 295 | 288 | 275 | 203 | 209 |
| 売 場 面 積 | m ² | 4,769 | 6,467 | 5,956 | 4,031 | 3,195 | 4,989 |
| 年 間 商 品 販 売 額 | 千万 円 | 406 | 452 | 383 | 341 | 203 | 325 |



昭和中期の中里商店街



現在の中里商店街

工 業

本町の工業を取り巻く環境は、長引く不況と経済のグローバル化などにより、人件費等のコスト削減を求めて国内製造業の生産拠点が次々に海外へシフトするなど地域経済に与える影響も大きく、その対応に苦慮する地域立地の企業も年々その数が減少している。

そのような中、本地域の代表的な伝統産業である球磨鍛冶（くまかじ）や球磨焼酎醸造、また、60年以上の歴史を誇り地域の漬物製造販売に取り組んできた農事組合法人下村婦人会などは、創意工夫・商品開発・販路開拓により、その歴史を絶やすことなく現在に受け継がれている。



球 磨 鍛 冶

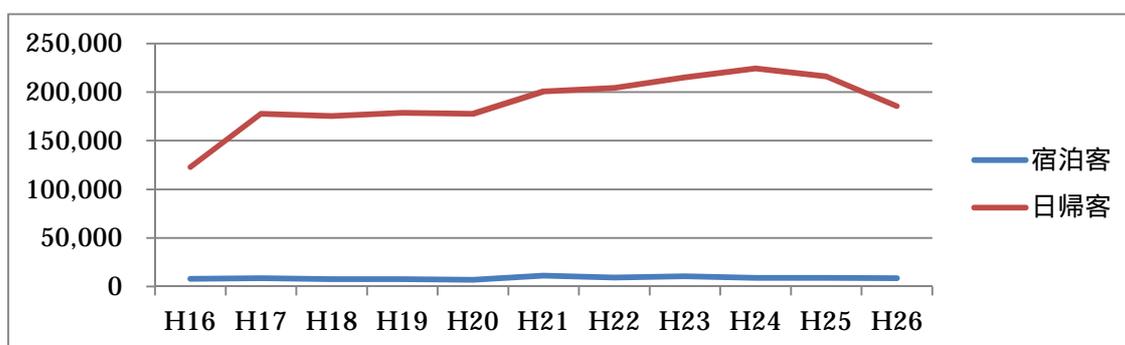


球 磨 焼 酎 蔵 元

観 光

本町には、日本遺産構成文化財の社寺堂宇や周囲の自然に加え、湯前まんが美術館を核としたマンガによる取り組みや、魅力ある特産品などの観光資源が豊富にあり、来訪者のうち過半数以上がゆのまえ温泉湯楽里を利用している。

「熊本県観光統計」によると、宿泊客については、年ごとに多少の増減もあるが、若干の右肩上がりとなっており、日帰り客については、漫画フェスタやおっぱい祭りをはじめとするイベントの定着と相良三十三観音巡りの参拝者数増加や観光列車の運行開始等もあり 10 年間で約 10 万人の増加で大きな伸びを見せている。



| 区分 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 宿泊客 | 8,158 | 8,501 | 7,799 | 7,829 | 7,109 | 11,179 | 9,390 | 10,552 | 8,926 | 9,070 | 8,698 |
| 日帰り客 | 123,000 | 177,781 | 175,453 | 178,559 | 177,772 | 200,664 | 204,359 | 215,007 | 224,435 | 216,155 | 185,652 |
| 合計 | 131,158 | 186,282 | 183,252 | 186,388 | 184,881 | 211,843 | 213,749 | 225,559 | 233,361 | 225,225 | 194,350 |

観光入込数推移 (出典：熊本県観光統計)

本町の観光統計調査対象施設の内、重要文化財の明導寺阿弥陀堂や相良三十三観音巡りの対象となっている普門寺観音堂といった歴史的建造物への観光入込は年間 1 万人弱となっている。

| 施設名 | H23年計 | | | H24年計 | | | H25年計 | | | H26年計 | | | |
|-----------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 県内客 | 県外客 | 合計 | 県内客 | 県外客 | 合計 | 県内客 | 県外客 | 合計 | 県内客 | 県外客 | 合計 | |
| 城泉寺 周辺 | 明導寺阿弥陀堂 (城泉寺) | 2,136 | 988 | 3,124 | 2,375 | 658 | 3,033 | 2,992 | 581 | 3,573 | 1,614 | 928 | 2,542 |
| | 宝陀寺観音 | 1,153 | 493 | 1,646 | 1,161 | 498 | 1,659 | 1,277 | 546 | 1,823 | 1,236 | 532 | 1,768 |
| | 八勝寺阿弥陀堂 | 786 | 375 | 1,161 | 804 | 344 | 1,148 | 復原工事のため統計値なし | | | | | |
| | 小計 | 4,075 | 1,856 | 5,931 | 4,340 | 1,500 | 5,840 | 4,269 | 1,127 | 5,396 | 2,850 | 1,460 | 4,310 |
| 中心地 周辺 | 普門寺観音 | 1,300 | 553 | 1,853 | 1,263 | 539 | 1,802 | 1,390 | 593 | 1,983 | 1,255 | 542 | 1,983 |
| | 上里の町観音 | 1,376 | 586 | 1,962 | 1,331 | 569 | 1,900 | 1,303 | 556 | 1,859 | 1,221 | 533 | 1,859 |
| | 小計 | 2,676 | 1,139 | 3,815 | 2,594 | 1,108 | 3,702 | 2,693 | 1,149 | 3,842 | 2,476 | 1,075 | 3,842 |
| 計 | 6,751 | 2,995 | 9,746 | 6,934 | 2,608 | 9,542 | 6,962 | 2,276 | 9,238 | 5,326 | 2,535 | 8,152 | |

観光入込数推移 (文化財等施設の再掲・出典：熊本県観光統計)

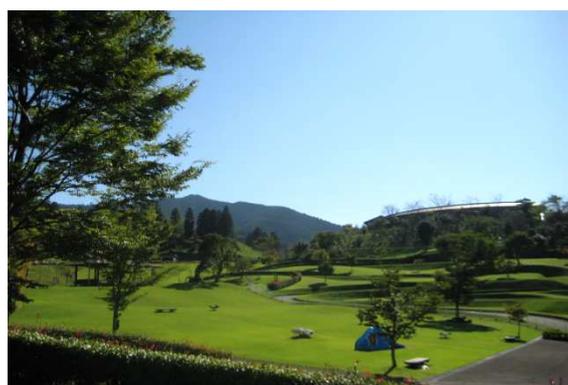
平成 27 年(2015)の熊本県観光統計によると、人吉・球磨地域の観光客数は、日帰り客数 2,928 千人、宿泊客数 247 千人であり、平成 27 年 4 月の日本遺産認定を受け、青井阿蘇神社(人吉市)や相良三十三観音(人吉球磨全域)への参拝客が増加したことや、鉄道ミュージアム(人吉市)等の新たな観光施設の開設により、対前年で 101.8%の微増となっている。

また、熊本県全体での外国人宿泊客数は、平成 27 年(2015)に 644 千人で過去最高となっており、国別の割合では、韓国 42%、台湾 23%、中国 11%と続き、全体の約 8 割がアジア圏からの入込となっている。

湯前町の主要観光施設



奥球磨ゆのまえ温泉湯楽里



湯前グリーンパレス公園



湯前まんが美術館



明導寺阿弥陀堂(城泉寺)

自然公園と九州自然歩道

本町及び隣接する水上村並びに多良木町は奥球磨県立自然公園の指定を受けており、本町域内では、主要県道錦湯前線及び町道東方線以西を除くほぼ全域が公園区域（普通地域）となっており、町中央下部の字潮山を中心に第2種特別地域、その周辺山間部が第3種特別地域となっている。

また、本町内では、幸野ダムより県道幸野染田線を幸野溝沿いに進み、町道西里宮線を経て市房山神宮里宮神社周辺を抜け、県道西ノ園中里線へ連なるルートが九州自然歩道となっている。

奥球磨県立自然公園区域図及び九州自然歩道位置図

